

## 【研修会参加報告】

「令和5年度西部地区高等学校人権教育研究会・西部地区 下榎隣保館 飛田朋伸  
隣保館集会所等職員連絡協議会・合同研修会」に参加して 中原純子

7月26日、富有まんてんホール（南部町）にて、標記の会が開催されました。

同会には各高校の教員、隣保館職員が参加し、各学校や町での実践発表、グループ討議、意見交換などを行いました。

実践発表で、境高等学校は、「2019年から2022年までは2つのテーマを決め、7～8時間かけて話し合う活発な取り組みができていた。しかし、今年からは取り組みに時間がかかる事柄でも5時間程度しか時間が取れず、中途半端な学習で終わってしまっている。また、社会問題研究部は活動実態が無く生徒主体でやっていたが、いつの間にか無くなったため、原則通り廃部となった。人権教育を行っていく上での課題として、分掌構成・廃部・PTA人権教育部の活動・総合的な探究の時間との兼ね合いがある」と話しました。

米子白鳳高等学校は、校内でLGBT（多様な性）だという生徒が増え、「実際に自分がそうだ」「自分の周りの人がそうだ」という状況だと話しました。また、「自己理解・他者理解の促進」に係る年度目標として、「生徒同士の信頼が醸成され、お互い尊重し合ってクラスが居心地の良い場となる」「学校が楽しいと感じる」を掲げています。人権学習の課題について、各班で自己の考えを語り合い、それらの意見をまとめてクラス全体に発表する。すべての学年で、こうした参加型学習の形式をとっているそうです。

下榎隣保館からは、町の人権教育の取り組みとして、町人権同和教育推進協議会の活動を発

表。人権同和教育研究集会の開催、小地域座談会の開催、推進者の育成、人権講座の開催などを報告しました。小地域座談会は、全自治会での開催を目標としているほか、研究集会ではハンセン病について講演を予定しています。

- グループ討議・意見交換では、
- ▼フィールドワークに参加しても、行く側も受ける側も理解できていないことがある。また、教壇に立つ上で学ぶ場がない。
  - ▼学校現場でも、小地域の中でもLGBTなど人権課題がたくさん出てきている。それについて学ぶ必要がある。
  - ▼地区を明かさずに学習をすることにもどかしさを感じる＝大きな課題あり。
  - ▼多忙で学校で取り組む時間がない。
  - ▼人権問題、インターネットでの問題、興味本位など、なかなか解決するものではない。今後でも取り組む必要がある。
  - ▼全く同和問題を知らないという教員がいる。
  - ▼人権教育主任が固定化、教員世代への広がり少なく、隣保館と学校側との話し合いなどが少ない。同和教育を学んでいない教員がいることなど、今後の大きな課題である。
- など、多くの討議、意見が出されました。

会に参加し、同和問題を知らない教員がいることや、以前は教員同士が話し合って決めていた学習会も、今は校長一人で決めている実態があることを知りました。これからも、自分に出来ることを含め、先生方と一緒に考え、意見交換を行っていききたいと思います。

## ◀ 学習講座 ▶

◆いきいき百歳体操 ▶毎週木曜日 時間：午後1時30分 場所：老人憩の家

◆生け花教室 ▶毎月第3土曜日 時間：午後1時30分 場所：下榎隣保館

※どなたでも参加できます。お気軽にお越しください。詳しくは、下榎隣保館（電話72-1191）までお問い合わせください。

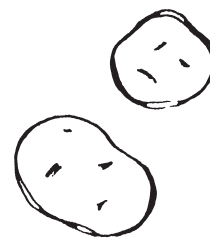
# 農業委員会だより No.101

## ひのっこ保育所との交流

7月18日、ひのっこ保育所で、4月に植え付けたジャガイモの収穫を子どもたちと農業委員会とで行いました。

この交流は、子どもたちに土とふれあい、農業をより身近に感じてもらうとともに、食の安全を学んでもらうことを目的に毎年行っています。

収穫後、新ジャガイモを蒸して、みんなで塩をつけて食べました。



▲農業委員さんに習い、葉っぱを引っこ抜くと、たくさんのジャガイモが実っていました。



▲おいしい食べ物を育ててくれる人、調理してくれる人、みんなに感謝して食べました。

## 農業委員会と町議会総務経済常任委員会との意見交換

7月7日、農業に関する意見交換会を行いました。

これは、本町の基幹産業である農林業について推進を図りたいとの意見が町議会総務経済常任委員会にてあり、農業の方向性を把握するため農業委員会へ申し出があり開催されたものです。意見交換会の内容の一部を紹介します。



### ●本町の農業では、こういったことが課題となっているか。

- ・米価の下落により、産業として農業所得が低いこと。
- ・高齢化と後継者が不足していること。
- ・農家数の減少にともない、水路等の維持を担う人手が不足していること。

### ●こういった対策、支援が必要か。

- ・米を食べること。畑作等の米以外の作物への転換も検討すること。
- ・農業をやりたいという人へ、農業体験、支援施策等をPRすること。
- ・非農家の力を借りて、農業（水路掃除）を支える共助制度を構築すること。

ほかにも多くの意見交換を行い、1回の意見交換では話さきれないため、日ごろから意見交換を行い、政策提言に活かしていきたいとの思いを強めました。